

2019 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 地域ビジネス学科	准教授	浅野 和也
最終学歴	学 位	専門分野
中京大学大学院経営学研究科博士後期課程修了	博士	経営学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

カリキュラムポリシーに根ざした学生の多面的な分析視角の形成・発達への積極的な支援

(計画)

学生からの質問・疑問に対して真摯に対応し学生だけでなく自己の成長につなげることを目指す。

○担当科目 (前期・後期)

(前期)

人材育成論、地域労働市場論、企業研究、総合演習 I、専門演習 I、専門演習 III

(後期)

なし

○教育方法の実践

パワーポイントは使用せず、できるだけ受講者に聞く・考える・書くことを促した

○作成した教科書・教材

授業内容に即したプリントを作成し配布

○自己評価

学生から「面白い授業だった」「ためになった」などの声を得ることができたので、上記の目標・計画をそれなりに達成できたと思われる。

II 研究活動

○研究課題

自動車産業における働き方の考察

○目標・計画

(目標)

これまで研究を進めてきた自動車産業の働き方を踏まえて、日本企業における働き方の実態を把握すること。

(計画)

継続可能な調査対象へのアプローチを積極的に行いながら、論文、学会発表等の機会を通じて研究成果を発信する。

○2012 年 4 月から 2020 年 3 月の研究業績 (特許等を含む)

(著書)

- ・猿田正機編著、杉山 直・浅野和也・浅生卯一・宋 艶荅著『安倍政権下のトヨタ自動車』税務経理協会、2018 年 3 月
- ・猿田正機編著、杉山 直・浅野和也・宋 艶荅・櫻井善行・張 永強著『トヨタの躍進と人事労務管理』税務経理協会、2016 年 3 月

- ・猿田正機編著、杉山 直・浅野和也・宋 艶荅・櫻井善行著『逆流する日本資本主義とトヨタ』税務経理協会、2014年3月
- ・猿田正機編著、杉山 直・浅野和也・宋 艶荅・櫻井善行著『日本におけるトヨタ労働研究』文眞堂、2012年3月

(学術論文)

- ・浅野和也「トヨタにおける効率的かつ柔軟な働き方の模索と展開」『東邦学誌』第48巻第1号、2019年6月
- ・浅野和也「トヨタにおける働き方の一考察」『中京企業研究』第36号、2014年12月
- ・浅野和也「自動車産業における働き方に関する一考察(2)」『東邦学誌』第41巻第1号、2012年6月

(学会発表)

- ・浅野和也「トヨタの『ダイバーシティ』推進」社会政策学会第135回大会、愛知学院大学、2017年10月
- ・浅野和也「合評会 十名直喜編著『地域創生の産業システム』水曜社、2015年」経済理論学会中部部会、2015年5月
- ・浅野和也「書評：猿田正機著『日本的労使関係と「福祉国家」—労務管理と労働政策を中心に—』(税務経理協会、2013年)をつうじて」社会政策学会東海部会、中京大学、2014年2月

(特許)

(その他)

- ・浅野和也「3 自動車産業」大原社会問題研究所『2019年版 日本労働年鑑』旬報社、2019年
- ・浅野和也「トヨタ・ベトナム工場労働者の労働実態」『愛知労働問題研究所所報』第189号、2016年7月
- ・浅野和也「研究ノート 日本のワーク・ライフ・バランスは何をめざしているのか」『中京経営紀要』第23巻第1・2号、2014年3月

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

- ・2013年度日本学術振興会科研費若手研究(B) 一不採択
- ・公益財団法人大幸財団 平成29年度 第6回人文・社会科学系学術研究助成一不採択

○所属学会

社会政策学会、労務理論学会、日本労務学会、労働社会学会、日本経営学会、北ヨーロッパ学会、過労死防止学会

○自己評価

論文の公表および学術研究所からの原稿依頼に対応できたことで、一定の前進があり研究が進展したと思われる。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

大学業務をつうじてさまざまな大学の問題や課題を進言し民主的な大学運営を実現する。

(計画)

大学業務をつうじて現状を把握し問題解決のための情報共有・意思決定の方策を考えて進言する。

○学内委員等

キャリア支援委員会委員、東邦 STEP 運営委員会委員、軟式野球部顧問

○自己評価

キャリア支援委員会において地域ビジネス学科のキャリアマップを作成した。委員会での業務を忠実に遂行し貢献できたと思われる。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

ブランディング認知度向上と関連させたいうで本学が実践できる社会貢献とは何かを理解する。

(計画)

本学が中長期的に社会や地域と連携していく上で必要なこととは何かを考える。

○学会活動等

労務理論学会幹事、社会政策学会秋季大会企画委員

○地域連携・社会貢献等

豊橋中央高校への出張講義

○自己評価

豊橋中央高校での出張講義は5年連続で依頼があり、一定の信頼関係が構築できていると思われる。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

VI 総括

2019年9月末日で退職となったため半年間の総括であるが、研究・教育・学務とバランスよく遂行できた。突然の退職であったため、演習学生が非常に残念がってくれたのが印象的であった。

以 上